



奈良への提案

令和2年度 地域志向科目

「なら学+ (プラス)」

～奈良を通じて地方創生への知見を深めよう！～

奈良への提案

令和2年度 地域志向科目

「なら学+(プラス)」

～奈良を通じて地方創生への知見を深めよう！～

奈良女子大学 やまと共創郷育センター

はじめに

奈良女子大学は、平成 27 年度に文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択され、奈良工業高等専門学校および奈良県立大学とともに、奈良県内の地方公共団体や企業等と協働して事業に取り組んでいます。本学ではこうした取り組みの一環として、「奈良を知り奈良を好きになる契機とする科目（地方創生理解科目）」として、全学共通の教養教育科目に「なら学+（プラス）」を平成 29 年度から開講しています。

本科目は、従来教養教育科目に開講してきた「なら学」に、地域が一体となって地域が必要とする人材を養成するという要素を加えたもので、平成 28 年度に「キャリアデザイン・ゼミナール(C4)」(日本一の奈良を知る)として開講したのち、平成 29 年度から卒業要件単位に含まれる科目としました。

開講 4 年目となる令和 2 年度も、奈良県の伝統（地場）産業や基幹産業を中心に各回のテーマを設定し、奈良県をはじめとする自治体や県内企業経営者並びに専門的な業務に携わる方々を実務家教員としてお迎えし、様々な視点から奈良の課題や取り組みについて講義していただきました。

本冊子は、全 15 回の授業概要の他、課題レポート『奈良への提案』や受講アンケート等を紹介するものです。ご一読くだされば幸いです。

本講義の開講にあたり、ご協力いただきました自治体、企業、団体の皆様方にあらためて御礼申し上げます。

令和 3 年 3 月

やまと共創郷育センター長

成瀬 九美

やまと共創郷育センター

特任教授 地域連携コーディネーター

前川 光正

目 次

はじめに

第1部

1. なら学+（プラス）とは p. 1
 2. 授業概要・成果
- 第1回 ガイダンス p. 3
 - 第2回 妖怪博士の『観光立国論』-井上円了は明治の奈良で「光」を観たか- p. 5
 - 第3回 観光産業への理解を深め、課題を探る p. 7
 - 第4回 伝統産業（林業）への理解を深め、課題を探る p. 9
 - 第5回 伝統産業（製菓）への理解を深め、課題を探る p. 11
 - 第6回 伝統産業（墨）・地場産業（靴下）への理解を深め、課題を探る p. 13
 - 第7回 食の歴史を知り世界に発信するための課題を探る p. 15
 - 第8回 柿を通じた消費の創出、マーケティングを考える p. 17
 - 第9回 奈良の現代産業に聞く p. 19
 - 第10回 女性の多様な生き方・働き方を考える p. 21
 - 第11回 これからの地域社会と科学・技術を探る p. 23
 - 第12回 これからの地域社会と生活福祉を考える p. 25
 - 第13回 これからの地域社会と自治体の役割を考える p. 27
 - 第14回 まとめ「課題発見・問題解決・提案力を養う」（1） p. 29
 - 第15回 まとめ「課題発見・問題解決・提案力を養う」（2） p. 31

第2部

- 『奈良への提案』レポート集について p. 36
- 農林業（6次産業） p. 37
- 伝統・地場産業・モノづくり p. 54
- サービス（観光） p. 90
- サービス（観光以外） p. 164
- 社会・生活・福祉・健康 p. 172
- その他 p. 184

第1部

1. なら学+（プラス）とは

この授業は、県内自治体・企業から多彩なゲストスピーカーを迎え、様々な視点から奈良の課題や取り組みについて学ぶことにより、問題解決力、提案力を養い、奈良はもちろんのこと、地元に戻っても活躍できる未来の地域リーダーの育成を目指している。

今年度も1回生を中心に全学部から179人の学生が受講した。講義はガイダンスを含め15回にわたり、オンライン授業にて実施し、第6回から第11回授業については、学生同士が十分に距離を取れる大教室へ移動し、大学敷地内にいる学生を対象に対面形式も兼ねたハイブリッド型授業へと発展させ、安全な環境を確保しつつも臨場感ある授業を開催することができた。

毎回、授業の後半に学生からの質問コーナーを設け、学生はチャット機能を使ってゲストスピーカーへ質問し、オンタイムで質問への回答をいただくことにより、学生との双方向性を確保することができた。また、授業後にも学生のレポート、質問等をゲストスピーカーに提供し、ゲストスピーカーからは、授業感想ならびに学生へのメッセージを配信し、授業の振り返りを実施した。

この授業を通して、奈良の課題をあらゆる角度から知り、考え、課題レポート『奈良への提案』では、学生自身で調査し、課題を深く掘り下げ、実現可能な提案を作成することを目指した。

○ 本科目の受講生 所属学部・回生

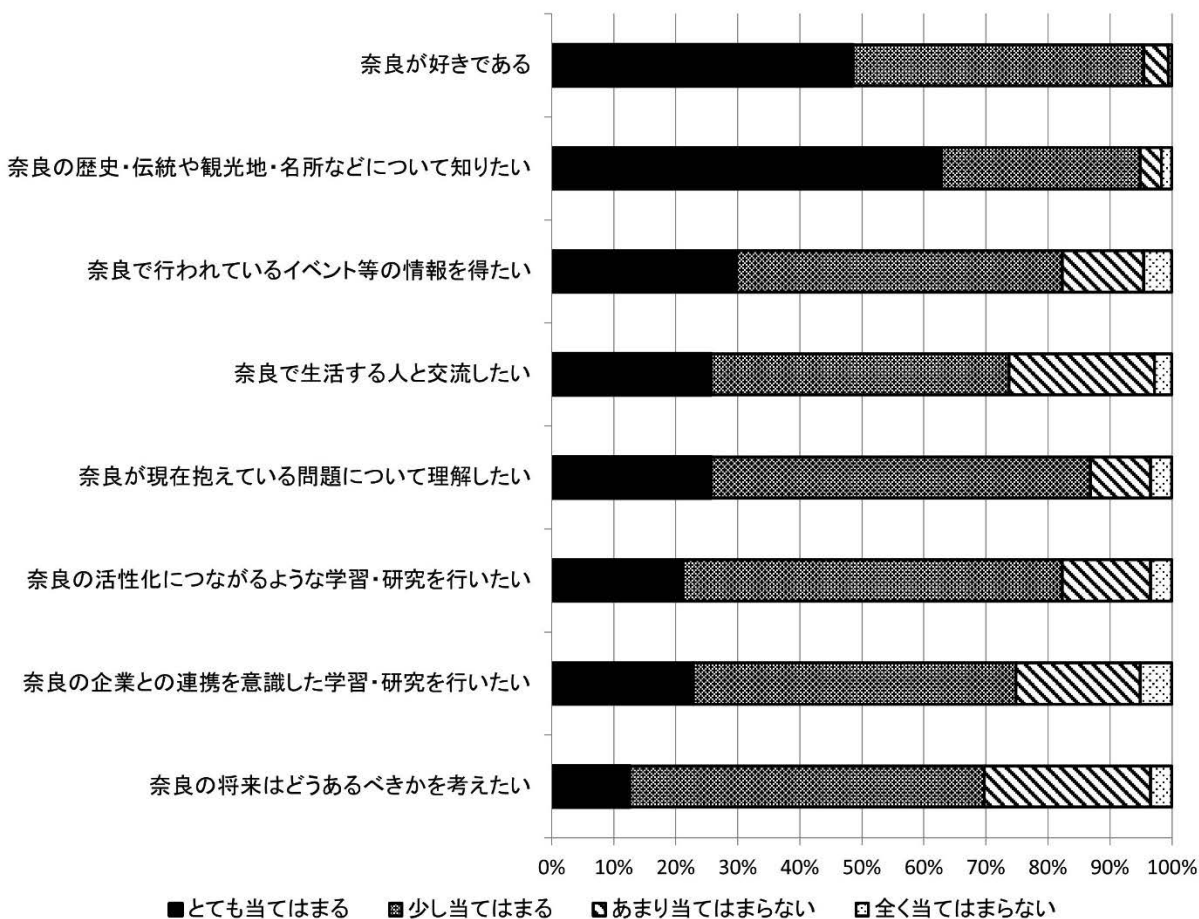
	文学部	理学部	生活環境学部	計
1回生	45	19	51	115
2回生	11	10	11	32
3回生	8	11	3	22
4回生	3	3	4	10
計	67	43	69	179

本科目を受講するにあたっての受講動機の確認のため、ガイダンス実施時に学生に奈良への興味や奈良への関心度を確かめるアンケートを実施した。結果は以下グラフの通りである。

多くの学生が「奈良の歴史・伝統や観光地・名所」「奈良で行われているイベント等の情報」「奈良が現在抱えている問題」に関心があり、ほとんどの学生が「奈良が好きである」と回答している。

授業では、学生の探求心に応えられるよう、奈良で活躍されている県内企業及び自治体の方をゲストスピーカーとしてお招きし、奈良の食、歴史、伝統産業、観光産業、地場産業、現代産業、科学技術、社会福祉など多岐にわたる分野の情報や課題を提供していただいた。

○ 受講動機（実施日：令和2年10月12日～10月31日 有効回答数 175人）



2. 授業概要・成果

第1回 ガイダンス（令和2年10月6日）

やまと共創郷育センター センター長 成瀬 九美
同 特任教授 前川 光正

ガイダンスでは、授業スケジュールならびに、授業概要、学習到達目標等の説明を行った。

(1) 授業概要

地方創生推進事業（COC+）に採択されてスタートした授業です。県内企業や自治体、県内教育機関から多彩なゲストを迎え、「奈良」をフィールドとして地域社会の抱える問題を見つけ、その解決策をともに考えてゆきます。奈良で働く人からのメッセージを受けてキャリアプランを豊かにし、地域で活躍できる人材の育成を目指します。

(2) 学習到達目標

奈良に関する基礎的な知識を身に付け、課題発見、問題解決、提案力を養います。生きた「知」を身につけた未来の地域リーダーを育成します。



(3) 令和2年度 なら学+（プラス）授業スケジュール

回	授業内容	講師
1	ガイダンス	担当教員 やまと共創郷育センター
2	妖怪博士の『観光立国論』 -井上円了は明治の奈良で「光」を観たか-	奈良県立大学 ユーラシア研究センター
3	観光産業への理解を深め、課題を探る	(公社)奈良市観光協会 (一社)飛鳥観光協会
4	伝統産業（林業）への理解を深め、課題を探る	奈良県森林技術センター (株)イムラ
5	伝統産業（製薬）への理解を深め、課題を探る	奈良県薬事研究センター 佐藤薬品工業(株)
6	伝統産業（墨）・地場産業（靴下）への理解を深め、課題を探る	(株)墨運堂 (株)キタイ
7	食の歴史を知り世界に発信するための課題を探る	(株)池利 名阪食品(株)
8	柿を通じた消費の創出、マーケティングを考える	奈良県農業研究開発センター (合)ほうせき箱
9	奈良の現代産業に聞く	(株)ATOUN DMG 森精機(株)
10	女性の多様な生き方・働き方を考える	奈良県子ども・女性局女性活躍推進課 損害保険ジャパン(株)
11	これからの地域社会と科学・技術を探る	奈良工業高等専門学校
12	これからの地域社会と生活福祉を考える	奈良佐保短期大学生活未来科 奈良県社会福祉協議会
13	これからの地域社会と自治体の役割を考える	奈良県観光局 下市町
14	まとめ「課題発見・問題解決・提案力を養う」 (1)	(一財)南都経済研究所
15	まとめ「課題発見・問題解決・提案力を養う」 (2)	担当教員 やまと共創郷育センター

第2回 「妖怪博士の『観光立国論』-井上円了は明治の奈良で「光」を観たか-

(令和2年10月13日)

奈良県立大学 ユーラシア研究センター 特任准教授 中島 敬介 様

(1) 授業概要

「妖怪博士」と俗称される井上円了(1858-1919)は、明治~大正期の哲学者/宗教(学)者、教育者である。明治21年、外客誘致による「観光立国」を提唱していた。明治23年から延べ27年間、日本全国(現在の市町村の半数以上)を講演して回り、また生涯3度の世界旅行も行っている。本講義では、円了の「大和紀行」や「大和論」の記述に現れた一著名な書物等では語られない一奈良の「生きた」文化コンテンツを見て、円了の「観光」観や「大和論」を考察し、観光を通して円了が期待していたものは、「なに/だれ」かを探る授業を展開された。

(2) 学生へのレポート課題と感想(抜粋)

課題：典型的な奈良のイメージを思い浮かべ、なぜそのようなイメージが浮かんだのかを考えてください

「鹿」が一番に思い浮かんだ。実際に、奈良公園に訪れた時に鹿の糞を踏まないように歩くのが難しいぐらいたくさんの鹿がいた。さらに今通っている奈良女子大学にも鹿がいて、それには正直驚いた。小学校の頃に都道府県を覚えるときにイメージとして「鹿」をセットで覚えた記憶がある。だから、「鹿」が浮かんだと思う。

大分という奈良からかなり離れた場所に住んでいた私の奈良の典型的なイメージとして「鹿と大仏」というものがある。私は日本の歴史に興味があり、何度か東大寺を訪れ大仏を拝見した。周辺で多くの鹿を見た。大学内でも鹿は見かける。このイメージが浮かんだのは、東大寺・奈良の大仏は小学校で学習し修学旅行でも訪れることの多い場所であるから人々の印象に残りやすいためであると考え。また、名産の柿・墨・靴下などは奈良以外でも見ることができると大仏や多くの鹿が人と共存する様子などは奈良に来なければ見ることができず、唯一性があるためであると考え。

古都・奈良。静かな寺社仏閣で、鐘の音が響いている情景。奈良は静かなイメージがありますが、実際コロナ前は観光客がたくさんいてそこまで静かではなかったな、という印象です。正岡子規が詠んだ「柿食えば鐘がなるなり法隆寺」の句からイメージしているのだと思います。

古い寺や神社に囲まれていて、高い建物がなく、古い街並みが残っているというイメージが浮かんだ。実際奈良に来て、自分が住んでいる周辺でそのような情景を経験したが、一部地域だけだと感じた。奈良についてそのようなイメージが浮かんだのは、教科書で飛鳥時代、奈良時代といった奈良が中心の時代を学習したり、修学旅行で定番の東大寺などを訪れたことから、奈良は寺社に囲まれた古い街というイメージを持っていたからである。

奈良の典型的なイメージは「緑豊か」です。実際に奈良で生活していて、山が多く、自然を身近に感じられるところだと感じています。なぜそのようなイメージが浮かんだの

かという、奈良は建物の高さ制限があって見晴らしが良いこと、また寺社仏閣が多く景観が守られていること等から、自然が多いイメージが浮かんだのだと考えた。

私が考える奈良の典型的なイメージは、少しほかの建物よりも背が高い重要文化財の塔と鮮やかな緑のコントラストが美しい場所というものです。そして、私は実際にその情景に奈良で出会えていると思います。特に興福寺から春日大社にかけて歩いていく道などは、奈良公園の綺麗な芝生と五重塔がとても印象的だと思います。ではなぜこの情景が思い浮かんだのでしょうか。それは、奈良のお土産物やパンフレットに使われるシルエットなどに、若草山と鹿と五重塔という組み合わせが多いから、またテレビで奈良を紹介するときによく使われるのが奈良公園の情景だったからだと私は考えます。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

ー井上円了に関して

明治26年あたりから、護国愛理を実行する手段として「妖怪学」を提唱し、学問としての「哲学」も、妖怪学の一分野として包摂しました。「妖怪学」＝「偽や嘘、誤った妖怪を払拭すること」＝「哲学の実行」という図式になります。現在の典型的な奈良イメージは、本来多様な奈良（私はNARASと呼んでいます）の一部だけがトリミングされていると考えています。等身大に引き伸ばすには、円了をはじめ、さまざまな時代の、さまざまな立場からの奈良への「まなざし」を動員する必要があると考えています。

ー奈良イメージに関して

ダントツで「鹿」でした。ついで「社寺」／「大仏」／「豊かな自然」／「歴史・伝統」と続きました。ほぼ「好意的」なイメージで、奈良女子大生のみなさんの「優しさ」を感じます。そして、みなさんの抱く「典型」的な奈良イメージが、多くの場合、日常生活や修学旅行などの「実体験」に基づいていることにも感心しました。奈良の「典型」的なイメージは、本当は大切な、たくさんの語られた言葉や写された風景・情景を、どこかに置き忘れて、描かれてしまっているかもしれません。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

地域創造学部を擁する奈良県立大学から中島先生をお招きして井上円了先生についての講義をいただいた。井上円了先生については、初めてその名を知る学生がほとんどであったが、『妖怪博士の観光立国論』というタイトルにも惹かれます。井上円了先生は明治時代から「富国の秘法」として国際観光戦略をプランニングした先駆者です。「奈良

(大和)は国の始まりであり他地域と同じ状態に満足せず、進取の気質と気概を持って頑張っ

て欲しい」という文脈からは、現在、古都奈良で学ぶ本学学生に向けた同質のメッセージを感じました。



第3回 「観光産業への理解を深め、課題を探る」(令和2年10月20日)

(公社)奈良市観光協会 専務理事 高橋 一 様
(一社)飛鳥観光協会 代表理事 上山 好庸 様

(1) 授業概要

奈良市観光協会からは、奈良市観光の現状と分析・展望と題して、「増え続ける観光客に対して伸びない宿泊」といった課題や、奈良が発信すべき情報、取り組むべき方向の他、新型コロナウイルスへの新たな取組として「安心観光と非接触型観光」を推進する講義をいただいた。一方、飛鳥観光協会からは「日本はここから始まった」と題し、飛鳥時代に始まる国の枠組み、歴史遺産、歴史的風景、万葉風景の他、今後の課題や村民による取組について講義いただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想(抜粋)

課題：「奈良」または「飛鳥」の魅力ある観光資源の一つあげてください。その観光資源を活かして1日を過ごす場合、あなたならどのように計画し、行動しますか？

奈良公園をはじめ、奈良公園周辺とならまちを散策するコースを計画します。まず奈良公園へ向かいます。やはり奈良といえば鹿というイメージが強いので、奈良公園は外せないスポットだと思いました。鹿せんべいをあげたり、景色を十分楽しめたら、興福寺の国宝館に向かいます。

私はあの有名な阿修羅王を見たことがないので一度は見てみたいです。そのあとなら町へ向かい、カフェでゆったりくつろぎます。

歴史ある建築物が奈良の魅力の一つだと思います。ですので、奈良で一日過ごすならば、東大寺のような世界遺産は勿論のこと、少し他とは異なる特色のある神社も巡りたいと思います。例えば、氷室神社という神社は、独特なおみくじが売られているそうです。神社に置かれている氷に付けると、おみくじの紙に文字が浮き上がってくるのだそうです。

平城京跡が非常に魅力的な観光資源であるように感じる。奈良女子大学への進学が決まった際に訪れたのだが、電車に乗っているとそれまで建物や家が並んでいるという窓から見える風景が平城京跡では広大な土地が目飛び込んでくる。その広大な土地を天気のいい日にゆったりと散歩するだけで、歴史を肌を感じながら過ごせるのではないかと。また資料館では様々な出土された遺構を見ながらガイドの方に一つずつ説明を受けて眺めると、自分では知りえない興味深い話を聞くことができ遥か昔に思いを馳せることができた。かき氷が近年急速に流行し始めたと思ったが、かき氷店をはしごしてビジュアルを楽しみ写真を撮りつつ食べ比べしてみるのには若者にとって魅力的である。夕方までかき氷を堪能した後は、若草山の夜景を楽しむべく夜景観賞バスに乗車する。観賞バスが運行するのはアクセス方法が車である若草山において、自家用車ではなく鉄道を利用して観光していた身にとってありがたい。また奈良は宿泊率が低いとのことだが、若草山での夜景観賞をすることを前提とするのならばそのまま奈良に宿泊する人も増えるのではないのだろうか。ホテルが若草山までのバスを出すことでそのホテルへの宿泊者数を増やす手段にもなると考える。奈良の街並みを昼間は実際に歩き、夜は実際に山頂から眺めるといふ二つの側面から奈良の広大な土地を感じることができる。

近鉄飛鳥駅から出発し、猿石、鬼の雪隠・俎、亀石などを巡って石舞台古墳内を見学したのち石舞台古墳前の公園（国営飛鳥歴史公園石舞台地区）にて弁当を食べます。その後、岡寺、飛鳥寺を見物し、甘樫丘を登って帰宅します。飛鳥は歩いても多くの名所を巡ることができるのが魅力的だと思います。

スライドでご紹介があったような様々な石造物に、飛鳥ならではのミステリアスな・神秘的な雰囲気を感じたので、自然の中を歩きながら様々な石造物を探すことを1日のメインにしたいと思います。山の中も歩けるような靴と服装で、電車を利用して午前中には飛鳥の地につけるような計画を立てたいです。食事はその土地で偶然見つけた飲食店や地元の食べ物が楽しめる場所を探したいです。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良市観光協会 高橋先生から

奈良は鹿と大仏、と言われておりますが、それが良くも悪くも本当の一番の強力なコンテンツであると再認識しました。それが興味の発端であり、そこから他の世界遺産社寺や、ならまちに興味・行動が広がっていくのでしょうか。また、女性らしく多くの方が「カフェ巡り」を楽しみに挙げておられます。オープンカフェでコーヒーやビールを楽しむ観光客の姿がもっとたくさん見られるようになったら、奈良はパリやアムステルダムのような独特の雰囲気の古都になるでしょう。私共の発信力などは、まだまだ限界があります。奈良女子大の学生の皆さんが地元学生として、より多くの情報発信をお手伝いいただくと大変助かります。

飛鳥観光協会 上山先生から

明日香村は多くの人たちによって大規模な開発から守られてきました。飛鳥時代の宮跡や、寺院、大和三山を見下ろす甘樫丘。そのあちこちに飛鳥時代の人物が現れる。そういうイメージ作りのお手伝いが出来ればと立ち上げた劇団「時空」は20数年活動を続けています。メディアへの露出も増えました。また県内の宿泊施設に赴き出張公演を重ね、明日香村のPR部隊として役割を果たしてきました。若者層に関心を持ってもらうためには思い切った発想から生まれてくるイベントや、体験プログラムを生み出す必要があると考えています。心のふるさと明日香。何故かしら心落ち着くところ。誰もが懐かしい既視感を覚えるそんな明日香の風景をいつまでも残して行けたらと思っています。

(4) 授業成果（担当教員 前川コメント）

「奈良と観光」とは切り離すことが出来ないことから、奈良市観光協会と飛鳥観光協会からゲスト講師を招聘した。奈良市における観光課題と明日香村における観光課題の違いの他、コロナの影響、従来と異なった情報発信の重要性を学べた。特に、情報発信については、「情報は伝わらなければ存在しないのと同じである」を念頭にしなければならないこと、観光資源となっている自然・風景、歴史的遺産を守ることは街づくりと同じであるとのゲスト講師からのメッセージは受講生に多くの気づきを与えることが出来た。



第4回 「伝統産業(林業)への理解を深め、課題を探る」(令和2年10月27日実施)

奈良県森林技術センター 所長 高橋 龍治 様
(株)イムラ 取締役 企画室長 井村 真輝 様

(1) 授業概要

奈良県森林技術センター高橋所長から奈良県の森林の状況、吉野林業の歴史や奈良県産スギ・ヒノキの特徴、県産スギ材の新用途開発、消臭効果、カビ・細菌の生育抑制、湿度調整効果の他、今の木使い(気遣い)が100年後の森を作っているとの講義を受けた。川上村産の木材を活用したハウスメーカー(株)イムラの井村様からは、吉野杉の良さと共に後継者不足、吉野林業の衰退が過疎化を招いているという負のスパイラルからの脱却、奈良の林業を再生させる取り組みについての授業を受けた。

(2) 学生へのレポート課題と感想(抜粋)

課題：本日の講義を受けて、林業に対するイメージにどのような変化がありましたか？理由と共に簡潔に記載してください

<p>今までは奈良のスギやヒノキが有名という表面上のことしか知りませんでした。その背景を知ることができました。まず、日本で唯一500年の歴史を持つ人工林であるため日本の中でも特別な木であるという面や、密林で育てることで年輪が細かいという特徴があることです。また、消臭や吸湿の作用、カビや細菌の抑制の効果があることに驚きました。奈良の木と関わり過ごせるよう、これから生活する中でなにかしらのものを取り入れてみたいと思いました。</p>
<p>伝統の製品となると、高価で手が出せないという印象があるのですが、本当に良いものであるということが分かったので、なんとか安価な外国産に負けないよう知名度が上がってほしいと思いました。</p>
<p>私は以前「人工〇〇」という言葉を聞くと、人が自然に介入し、操作しようとしている、といった良くないイメージをいつも思い浮かべていました。「人工林」についても同様です。でも、今日、吉野杉が人間の手によって伐採されて木材に使用され、また苗が植えられる、といった繰り返しによって森が守られるというお話を聞き、人工林というのは「人の自然に対する支配」ではなく、「人と自然の共存」であることが分かりました。</p>
<p>吉野杉自体にはとてもいいイメージを持った。強度が強い、色が美しい、節が少ない、カビや雑菌に強いという特性だけではなく、家などに使用すると温かみを感じられるところや健康に寄与する可能性を秘めているところもいいと思った。林業を守っていくために、循環する持続的な林業を目指すこと、私たちがもっと林業に興味、関心を持つことが大事だということがよく分かった。</p>
<p>今回の講義を受けて、林業(と言うより吉野の木材)がより近い存在に感じられるようになりました。日常生活で使っている木材製品はやはり安価な外国の木材を使ったものが多く、質は良いのだけれども価格の高い日本産の木材というのは敷居の高いものだという感覚がありました。しかし、こうやって外国の木材ばかりを使っていると日本の林業を危機に追いこんでしまう、でもその危機を救えるのも消費者の私たちだということに気づきました。林業や日本の木材を守ることができるのは自分たちだと思うと、林業や日本産の木材に前より親近感が持てました。</p>

林業は、問題意識をあまり持てていなかったのですが、保全すべき魅力ある産業だというイメージに変化しました。500年の歴史という伝統がネックになって、輸入商品に追随できなかったという事実は、ショックを受けました。しかし、組合や民間企業が協力して、前に進もうとされていることが良く分かった。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県森林技術センター 高橋先生から

現在では、海外産の安価な木材が輸入され奈良県のみならず、全国的に林業にとって厳しい状況が続いています。講義でもお話させていただきましたが、木材は燃料として、また様々な材料として使用され、その役目を果たし燃やされた後でも、さらに苗木を植え、成長させれば使用できる再生可能でカーボンニュートラルな資材です。持続する林業に資する「木づかい」を今一度考えていただければ幸いです。

(株)イムラ 井村先生から

日本の山間部は急速に過疎化が進み、川上村の過疎化も深刻化の一途をたどっています。なんとかそのような状況を食い止めるには木材の出荷量を増やすのが一番のカンフル剤であり、特に有効な手段が木造住宅の建築であると考えております。コロナ禍の只中ですが、在宅時間が増えて、家や家具に投資する人が増えてきています。そのような方々に一日中木の香りに囲まれる空間で過ごせる吉野杉の家を訴求し、吉野杉の需要喚起を行いたいと考えております。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

奈良県には「奈良の木ブランド課」が設けられています。「奈良といえば吉野杉」と言われるほど吉野林業は有名ではありますが、木材価格の低迷等による林業の衰退が過疎化を招いているのも事実です。今回は、奈良県森林技術センターならびに(株)イムラ様をゲスト講師に招き、官民それぞれ異なる立場から奈良の林業についての講義をいただきました。この講義を受けて吉野杉・吉野檜をより身近に感じる学生が増えることを期待します。



第5回 「伝統産業(製薬)の理解を深め、課題を探る」(令和2年11月10日実施)

奈良県薬事研究センター 主任研究員 植松 猛 様
佐藤薬品工業(株) 総務部課長 前田 晋也 様

(1) 授業概要

奈良県薬事研究センター植松様から、生薬・漢方薬、奈良の薬の歴史、地場産業として発展してきた理由や、配置販売等奈良の薬の特色等の説明を受けた。続いて、橿原市に本社のある佐藤薬品工業(株)前田様から、民間企業の立場にて「地域に根付いた企業活動～女性社員の活躍～」と題して、企業理念、特に製薬会社として「信頼に応える」ことの積み重ねが会社を支える、モノづくりは人づくりであること、奈良女OGが活躍していること、地域貢献が、新たな商品の開発に繋がることの講義をいただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想(抜粋)

課題：本日の授業を受けて、奈良のくすりに対する印象はどのように変化がありましたか？その理由と共に簡潔に記載してください。

<p>県外出身のため「奈良のくすり」が伝統産業であるということは初耳だったが、官民連携して地場産業を盛り上げようとしていることは良い取り組みだと感じた。近頃は自然由来のものを口にしたいというニーズが高まっており、漢方の取り組みはニーズにもあったものであると考えた。</p>
<p>奈良が薬の製造が盛んだったことすら知らなかったのに、今回の講義を聞いて、徳川吉宗の時代から採薬使などの役職があってそこからヤマトトウキなどの薬草で薬を作っていたということを知った。女性向けの薬を女性が主体となって作っているというところがいいなと思った。</p>
<p>佐藤薬品工業株式会社ではサプリメントや化粧品用品など、様々な用途で利用されているということを学びました。よって、奈良の薬は昔の伝統を引き継ぎながらも、更に活発な産業になっているという印象を持ちました。</p>
<p>佐藤薬品工業株式会社さんでは女性が多く活躍しているとのことで、そのような企業が今後増えていってほしいと強く思いました。</p>
<p>自分自身、富山県出身ということもあり、薬といえば富山県というイメージが強かったので、奈良県は薬で有名であることを知りませんでした。しかし今回、薬事研究センターという、生薬の研究や共同開発などを行っている施設があり、奈良県では生薬が開発されているということを知りました。なので、自分の中の「奈良県といえば」のイメージに「生薬」も加わりました。</p>
<p>奈良に薬という印象はあまりなかったのでとても興味深かった。薬師寺など平城京の頃に薬にまつわるものがあることは知っていたが、現代の奈良の薬についてはまったく無知だったが生薬の話などはとても面白かった。陀羅尼助丸は夏に吉野に旅行に行ったときに見かけたので名前は聞いたことがあったけれど、具体的にどのような効能のある薬なのかは知らなかった。役小角の時代に作られた薬で、今でも製造されているという効能の高さに驚いた。漢方のメッカ推進プロジェクトというものはほとんど初耳だったが、生薬の原材料を見ることができるのは新鮮だった。</p>
<p>薬草園も純粋に見学に行きたいと思った。製薬会社と言われると理系の独壇場だと思</p>

っていたので、文系でも活躍できるというのは少し意外だった。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県薬事研究センター 植松先生から

本講義で奈良とくすりの歴史的背景、製薬の伝統産業について少しは理解頂けたと思います。漢方薬、生薬、薬用植物といった言葉に対して、少しでも抵抗がなくなり、今後の皆様にとって医薬品治療の際もそうですし、生薬（薬用植物）を用いたドリンクや浴用剤、薬膳料理等を身近なものに感じて頂ければ幸いです。最後になりますが、人生は何事も挑戦ですので、今回の学びをここで終わらせることなく、次のご自身の体験や経験につなげてください。今後の学生の皆様の就職もそうですし、生活スタイル等の手助けになれば、大変うれしいです。

佐藤薬品工業(株) 前田先生から

弊社の女性社員のイキイキと仕事してくれている様子は伝わりましたでしょうか？まだまだ女性管理職者の比率が低いと云うことが課題ですので、今後の制度整備と女性自身のモチベーション向上を図ってまいりたいと考えております。また、佐藤薬品工業(株)に少しでも興味を持ってもらえたならば、是非とも会社見学やインターンシップにご参加頂ければと思います。お気軽にお声がけください。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

奈良と薬については、古くからの歴史的背景もあり、今回「奈良のくすり」をテーマとした講義を実施した。漢方と言えば年配の方に好まれるイメージがあるが、体質改善、美容、健康といった関連商品や、大学とコラボレーションした新商品の開発などに本学OGが活躍しているといった紹介もあり、受講生に奈良のくすりへの関心を高めることができた。特に理学部生にとっては卒業後の進路を考える刺激ある授業となった。



第6回 「伝統産業(墨)・地場産業(靴下)への理解を深め、課題を探る」

(令和2年11月17日実施)

(株)墨運堂 代表取締役社長 松井 昭光 様
(株)キタイ 代表取締役社長 喜多 輝昌 様

(1) 授業概要

奈良の伝統産業でもある「奈良墨」と生産量日本一の靴下産業を取りあげ、(株)墨運堂松井社長様から、墨の歴史、墨の原料、墨の製造工程、墨の不思議、次世代に向けた取組みについて、また、(株)キタイ喜多社長様から会社概要、自社の取組、靴下業界の概要、奈良産地の現状と取組み、奈良の靴下の課題とその進むべき方向についての講義を実施した。

(2) 学生へのレポート課題と感想 (抜粋)

課題①：墨の需要は減少していますが、未来にどのような分野があると想像されますか？

指筆は指につけるといふ形状が役に立つだけでなく、筆のペン先が柔らかいからこそ上手く力を入れられない方も弱い筆圧で筆記できるのかもしれないと思いました。もし握力が弱い方にとって筆は書きやすいなら、介護の分野や身体に障害のある方向けの筆記具として墨(筆ペン)は今後も需要があるかもしれないと想像しました。

日本の伝統文化である墨が完全になくなることはないと思うが、芸術表現の分野でもっと活躍できると思う。私が留学した時に外国人の美術の先生に筆ペンを見せると感動して、どこで買えるのかと聞かれた。墨を日本特有の芸術と決めつけずに、墨の文化がないヨーロッパなどの外国の方にも触れあってもらえると、かつての日本のように日常的につかってもらえるのではないかとと思う。

私は未来の墨は、建築の一材料として存在しているのではないかと思います。講義中にも紹介されていたように、墨には多くの用途がありますが、私は特に壁に使われる左官墨や建築道具の黒壺用液体墨などを参考にすると、今後も建築現場で使われるのではないかと思います。なぜなら古民家では墨が壁に塗られて使われており、つまり日本の歴史で墨が使用されていたわけなので、私は歴史を保護する活動には多用されるのではないかと推測しました。また墨の香りはかなり上質なものであり、一般住宅の汚れが気になってしまう空間で使用するのを考えてみると、墨は必要なものになってくるのではないかと思います。

引き続き学校書写の材料、芸術表現の材料として利用されながら、習い事や自動車・スマートフォンなどの塗料としての需要が拡大すると想像する。近年、黒色に良いイメージを持つ人が増えているので、黒色の中でもきれいで深みのある墨色は、自動車やスマートフォン、パソコンなどの色として定着すれば、巨大な需要を生むのではないかと考える。

課題②：情報過多の時代にあって、あなたなら奈良の靴下の良さや優位性をどのようにして消費者に伝えますか？

奈良の国産靴下の履き心地に自信があるのなら、有名なスポーツのクラブチームなどに無償寄付して、リピートしてもらおうはどうでしょう。

可能なら、大手のシューズメーカーとコラボし、このような場面にはこの靴下がおすすめというのを、靴とセットで宣伝する。靴と宣伝することで、セットとなっている靴とのイメージがまずつき、靴とセットで購入してもらい、リピーターを増やし、そこからの一定の口コミ効果も期待できるのではないかと考え、そうして靴下のこだわりにも気付いてもらえるのではないかと考えました。

高級ホテルや旅館でアメニティにして、泊まりのお客さんに持って帰ってもらう。それで認知度アップにつながり、気に入った人は2足目以降も買ってくれるようになると思います。館内着にしてショップのグッズとして置いてもらうようにし、館内で着用して気に入った人に買ってもらえるようにする。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

(株)墨運堂 松井先生から

墨は我々日本人の DNA に染み込んでいるのではと感じています。現在の主たる筆記具ではありませんが、芸術表現として書画の世界は確立されておりお稽古事や展覧会活動も盛んです。また昨今では若い方の漫画やイラストなど書道以外の芸術分野での墨の使用、建築現場での墨の塗装、各種プロダクツへの墨の塗装、園芸用品、精密機器への塗装などその用途が様々な方面へと拡大しております。これらはすべて奈良時代より脈々と受け継いできた墨造りの技術を継承してきたことの賜物であると考えます。墨運堂は伝統産業としての和墨の技術の伝承、日本人の書く・描く文化の新しい可能性を追求し、新たな価値・魅力を創造し日本文化へ貢献してまいります。学生の皆様におかれましてもまだまだ日本の伝統文化・産業は奥が深く魅力的なものも多数ありますので、ぜひこの機会にたくさん学んでいただき新しい視点で応援いただければ幸いです。

(株)キタイ 喜寿先生から

日本の靴下産業についてご理解いただけましたでしょうか？皆さんからいただきましたご意見の中で最も多かったのは SNS を利用した情報発信でした。情報過多の中で、情報の客観的裏付けは大切です。最新技術によって製品の機能を客観的データに置き換えて表現することができれば、靴下の機能性に定性的評価を加えることも可能ではないかと考えます。今後、最新のデバイスと解析技術をもって製品の機能性評価基準が確立されることを願っております。そして靴下の履き心地評価標準により奈良の靴下を指名買いされる日が来ることを願っております。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

奈良の伝統産業を代表して創業 215 年の(株)墨運堂 10 代目松井社長から「墨」に関して、また、日本靴下工業組合連合会理事長でもある(株)キタイ喜寿社長をお招きして奈良の代表的な地場産業である「靴下」に関して講義をいただいた。業種は異なるものの経営者として自社製品への自信、会社のある奈良への思い、業界として進むべき将来へのベクトルは共通しており、社会人との接触の少ない学生にとって収穫の多い授業となった。



第7回 「食の歴史を知り世界に発信するための課題を探る」(令和2年11月24日実施)

(株)池利 専務取締役 池田 利秀 様
名阪食品(株) そふまる工房 係長 上田 稚子 様

(1) 授業概要

奈良の「食」を観点として、三輪素麺の(株)池利ならびに1日7万食を提供されている名阪食品(株)からご講義いただいた。(株)池利池田様からは三輪そうめんの由来や歴史、素麺の作り方、三輪素麺の抱える課題について、名阪食品(株)上田様からは、『奈良から発信、お客様にご満足いただけるサービスを実施するために』と題して『お客様の健康で豊かな食生活のために』という企業理念、管理栄養士の立場から『食べる』という行為についての考察や、見た目が変わらず、柔らかく、飲み込みやすい高齢者向け介護食「そふまる」の商品説明・開発にかかる研究課題等について講義をいただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想(抜粋)

課題①：池田先生の講義を受けて、生産者の高齢化・後継者問題といった課題についてどのようにすれば生産者等が増えると考えますか？

高齢化、後継者不足を解決するためには、若者に生産者の生活を体験し、理解してもらう機会をつくる必要があるのではないかと考えます。なぜなら、素麺作りで本当に生活していけるのか、と言った不安がある若者が多いのではないかと感じるからです。三輪素麺作りに限ったことではなく、一次産業の後継者不足なども叫ばれています。生産者と言う仕事が身近ではない人にとっては、大変な仕事、儲からない仕事と言うイメージがついてしまっているように感じます。そのため仕事についてまずは正しい理解をしてもらう必要があると考えます。

三輪素麺について関心がある人自体を増やせば自ずとその中から後継者になりたいという人が出てくる可能性も上がると思います。私は奈良県民ですが三輪素麺の味をよく知らないの(多分食べたこともあると思うのですがこれが三輪素麺、と意識して食べたことがないです)、より多くの人が三輪素麺に親しみを持つ機会をつくる必要だと思いました。奈良県内の学校給食で定期的に出されるなど、小さい頃から奈良の食べ物といえば三輪素麺、という意識を生む取り組みがあればいいなと思いました。

素麺作り体験ができる機会を設け、素麺がどのように作られているのかを実際に自分で作って知ってもらうことで、素麺作りの楽しさを伝えることができれば、生産者になりたいと感じる人が出てくるのではないかと考えます。生産者になることのメリットを伝えていくことも必要だと思います。

課題②：上田先生の講義を受けて、高齢者を含め、健康で豊かな食生活を実現するには何が大切かと考えますか？

母親が管理栄養士として介護施設に勤務しているので、高齢者の食生活は私にとって身近な事柄です。刻み食・ミキサー食などは聞いたことがありましたが、そふまるでは形を残した状態でそういった食に対応できることに驚きました。普段ミキサー食の方が寿司は普通に食べられるといったように、食べたいという意欲と食べることの楽しさが高齢者の食には大切だと考えます。

高校の授業で離乳食を食べてみるがあったのだが、私以外の生徒は見た目の段階で食べる気を失っていた経験から、見た目をより色鮮やかにしつつ、いかにも固形物であるかのように見せることが大切だと思う。乳幼児以外は皆固形物での食事に慣れているため、固形物のように見せかけて実はやわらかいという食べ物のほうが食欲をそそるのではないだろうか。

健康で豊かな食生活を実現するのに大切なのは、食事をただの生きるための手段として捉えるのではなく、日常にある楽しみと捉えることだと思います。そのために、メニューやいろどり、それぞれの人にとっての食べやすさなど様々なことを追求しなければならないのかなと思いました。これらによって人の食の意欲を向上させることはとても大きな意味があると思います。多くの人にとって食事の時間が楽しく幸福な時間であれば、健康で豊かな食生活は実現できると思います。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

(株)池利 池田先生から

三輪素麺業界はこれから大変な時期に入ることになります。三輪素麺業界で良い点は、生産者・販売会社の垣根を越えて集まり議論する関係が作れていることです。たいいてい業界内でいがみ合いがあるものですが、今三輪素麺業界にはそれがありません。それだけに今後の三輪素麺業界のためにいろいろな取り組みが行える土壌はできています。実際、奈良県・桜井市・金融機関より三輪素麺業界に対する熱い支援を頂いており、業界だけでなく行政・金融機関も一緒になって取り組んでまいります。講義の最後にもお話させていただきましたように、勉強も大切ですが、それ以外の様々なことはもっと大切かもしれません。たくさんの経験は人を豊かにしますし、魅力的にもなります。これからの皆様の将来が明るく輝くものであるようお祈りしています。

名阪食品(株)上田先生から

時間の制限もあり、簡単な説明になりましたが、食品「そふまる」に興味を持ち、共感していただけたことが伝わりました。私は開発者として、色んなものを食べたり、お店を見たり、旅行に行くことを積極的するようにしています。学生生活での経験は今しか得られない大きな財産ですので学生の皆さんも、食べたり、見たり、旅行したり、アルバイトをして学んで感じてほしいです。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

奈良県民にとって三輪素麺は身近な食品であるが、三輪が素麺発祥の地であることを初めて知ったという受講生も大勢いた。学生からは伝統を維持するだけでなく、認知度(ブランド)を上げるための様々な意見や感想が目についた。名阪食品(株)の「そふまる」に関しては、『食べる』という行為についての考察や、食べる楽しみを失わせない信念、明日への活力・希望の源の観点といった多くの素晴らしい気づきがあった。



第8回 「柿を通じた消費の創出、マーケティングを考える」 (令和2年12月1日)
奈良県農業研究開発センター 加工科長 濱崎 貞弘 様
(合)ほうせき箱 代表 平井 宗助 様

(1) 授業概要

生産量全国2位の「柿」をもとに、奈良県農業研究開発センター濱崎様から「柿の魅力を活かす奈良県の取り組み」と題して「柿」の栄養素、加工・利用の話、抗酸化作用のある柿の葉ビジネス、柿渋の利用方法、柿タンニンの抽出方法や柿タンニンサプリメントの話などいただいた。(合)ほうせき箱代表平井様からは、「柿を使った商品開発」と題して、奈良名産の「柿」の商品化について、柿の葉寿司とかき氷からみる奈良の文化の商品化、わくわくを地域課題の解決につなげる大切さ、無限の可能性を秘めた「柿渋」を使った商品によるマーケットの拡大に関して講義をいただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想 (抜粋)

課題①：本日の講義を受けてあなたなら柿の魅力をどのように伝えますか？

柿というと日本を代表する果物という印象がありますが、他の果物と違いあまり身近でない気がします。私は柿の甘さが好きですが、1人で食べるとなると種があったり、皮はどこまで剥くのかなど知らないことばかりです。りんごなどは家庭科で皮のむき方を習ったりしますが、柿はほとんど教えられないのでスーパーなどで柿の売り場に、柿の美味しい食べ方や保存方法などのビデオを流したら、若い人も柿をもっと身近に感じられるのではないかと思います。

コロナウイルスの感染が拡大していく中で、健康面に気を使う人が増えたように感じます。そこで、今回の授業でも紹介されたように、柿の健康面への効果について発信していくことが良いと思います。以前この授業で、奈良は製菓業が盛んだと習いました。今回授業内で紹介されたサプリメントのように、柿の効果的な成分を含んだ薬などが開発されたら、興味深いと思いました。

**課題②：現代の日本の農業についてあなたはどこに問題原因があると考えますか。
あなたならどのように解決しますか？**

農業における人手不足や後継者不足が問題だと思う。先日、若者の就職者が多い農業の企業を紹介したテレビを見たが、そこでは加工食品も手掛けることで一年中雇用を安定させて一般の企業と同じような福利厚生を設けたりしており、農業のブラックなイメージを払拭していると感じた。このような取り組みをすることは難しいことではあると思うが、若者の後継者が増えると今後も日本の農業が安定して発展していくことに繋がると思った。

日本の農業の問題点は、新規参入が難しい点だと思う。なぜなら最近では農業に興味のある若者も増加しているにも関わらず、ツテが無いと田畑すら手に入らない上に、田舎では既存のコミュニティが大きな力をもっており新規参入者を冷たくあしらうこともあるそうだ。こんなことではせつかく農業に従事しようと思っていた人が諦めてしまうのも無理はない。まず行政や団体などが耕作放棄地を買い取ることで新規参入者が田畑を購入しやすくし、さらに農業のアドバイスをを行い、新規参入者同士での交流を企画する

ことによって、新規参入のハードルを下げるべきと考えた。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県農業研究開発センター 濱崎先生から

限られた時間で柿の魅力を語るのにはいつも苦労しています。果実の美味しさや栄養成分と加工利用方法や調理法、多彩な品種や歴史文化にまつわる様々なエピソード、健康機能性や産業利用、栽培に関する事など、まともに語れば通期の柿講座が必要になるでしょう。そこを絞り込んで30分に収めるため、今回は敢えて食べ物としての柿の話は外し、葉や柿渋など、産業利用の面に絞り込んでみました。皆さんのレポート、目を通させていただきました。柿の魅力発信、日本農業の問題点と解決策、いずれも鋭い指摘があつて参考にさせて頂けるところも多々あるように感じました。特に柿の魅力については、品種や加工品等の食品としての魅力や、歴史、文化、健康機能性などの背景情報、葉や柿渋等果実以外の利用等も合わせた総合的なプロデュースが必要というご意見には、大変感銘を受けました。柿のテーマパークというコンセプトは、実際に一から構築するのは相当な投資が必要になり簡単にはいかないでしょうが、既に産地内に存在する柿博物館等を軸にすれば実現可能なように感じます。皆さんには是非この機会に農業に少しでも関心を持っていただき、現状を打破して発展的な未来が見いだせる農業の方向について、ご意見をいただければありがたいと思います。

(合)ほうせき箱 平井先生から

少し前から「持続可能な」という言葉をよく耳にします。目先のことだけでなく、50年後100年後の社会のありさまを模索しながら種まきをしていかないと、と考えています。私は「かき氷」と「柿葉」を通じて「やさしさ」「丁寧さ」をベースに「身近にあるもの」を見直し過度な「ストレスを与えない」ように長い視点で「ゆっくり」と「継続的」に地球に関わっていければと考えます。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

日本の秋を代表する果物「柿」をテーマに講義いただいた。柿は栄養の宝庫であることは学生も知っているようであったが、食べるにあたり、果物ナイフにて皮を剥く必要があるため敬遠する学生がいることは今日的であった。また、衣・食・住の様々なところで活用(応用)できることは知らない学生も多くいた。今回の授業を受けて「柿葉ビジネス」、「柿渋」を通したマーケティングや消費の創出、6次産業への展開を学ぶことができた。コロナ禍で大変な時代ではあるが、抗ウイルス作用・殺菌作用のある「柿タンニン」には無限の可能性があり、奈良の地からうまく発信できれば素晴らしいと感じた。



第9回 「奈良の現代産業に聞く」 (令和2年12月8日)

(株)ATOUN 代表取締役社長 藤本 弘道 様
DMG 森精機(株) システム企画部長 柏木 悟 様

(1) 授業概要

(株)ATOUN 藤本社長からは、「阿吽(あうん)の呼吸で動くロボットを着よう」と題してベンチャー企業として企業ビジョンやパワーアシストロボットがもたらす近未来社会や生活について講義いただいた。DMG 森精機(株) 柏木部長からは、「世界の中での製造業における日本と奈良の関係」と題して、奈良で生まれた会社がお客様と共に成長して世界のトップ企業になった会社経緯・会社の理念や目標の他、最新の工作機械について映像を交えながら紹介いただき、工作機械の無限の可能性について講義いただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想 (抜粋)

課題①：テクノロジー企業のATOUNが奈良で活躍するメリットは思い付きますか？

都会では考えつかない課題を発見できるというメリットがあると考えます。東京や大阪は便利で、そこで最先端のテクノロジーが生まれている印象ですが、テクノロジーで解決すべき課題は、奈良南部のような過疎地域や、山林地域にこそ、見出すことが出来るからです。そこで、イノベーションの種に出会うことが出来、都会の人々に驚きと気づきを与えられるのではないのでしょうか。また、奈良には、古代からの伝統や精神が息づいています。それらを、企業活動に取り入れることで、未来に進み続けるだけでなく、テクノロジーを利用する人々に、大切な日本らしさを思い出させる役割を果たすことが出来るというメリットもあると考えました。

講義でもあったように、奈良とロボットという相反する組み合わせは海外受けすると思う。奈良は和文化を象徴しており、ロボットは欧米の映画のものというイメージが強いからだ。奈良で活躍することで、奈良へ観光に来た外国人旅行者達に認知される可能性も高いと考える。また奈良は大阪、京都など大都市と隣接しており、インフラ整備も進んでいる。この地の利も奈良で活躍するメリットだと考える。

立地の良さはメリットとして挙げられるかなと思います。1時間程度で大都市大阪に出れる交通の便利さはもちろんですが、逆に大阪周辺から人を集められること、経営する上でのコスト(土地など)の低さも挙げられると思います。また奈良には伝統産業が多いので、そういった刺激を受けながら新しいものを開発できるのかなとも思いました。

課題②：奈良での製造業をさらに進化させるためにあなたならどのような取組が必要だと考えますか？

奈良には金属製造や繊維産業などを始めとする製造業が産業の中心を担っています。そして、この奈良の産業をこれからも存続させ、後世に残していくためには、現代の生活スタイルに適応していく必要があると思います。奈良で今まで受け継がれてきたやり方に現代技術を取り入れ、現在の需要に合った製品になるようにする工夫が必要であると思います。

製造業を進化させていくには、まず人員が必要だと思う。そのためには、若者たちに「この会社で働きたい」と思わせるような会社でなくてはならない。そうすると、働く環

境が大切になってくると思う。製造業は車庫のような工場で汗水たらして働くといったイメージがあり、それがよいという人もいるかもしれないが、若者からしたらやはりおしゃれなオフィスのような場所で働きたいと考えるだろう。また、女性にとっても優しい会社でなければならないと思う。今日の授業でもあったように、保育所を近くに設置するなど、子育ての支援が充実している会社だと、女性はそこで働きたいと思うだろう。また、こういったことは会社というよりも奈良県自体が取り組まねばならない問題だと思う。他の県にはない子育て支援政策を行うことで、奈良の人口も増えるし、将来製造業を担う若者たちを多く育てることができるだろう。

高齢化がどんどん進んでいる奈良においては、とにかく若い人を取り込むことが第一優先事項だと思うので、奈良の若者が外に出ずに奈良の製造業に就いてくれる、あるいは奈良県外からも奈良の製造業に就いてくれる人材を確保するための取り組みが必要だと考えます。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

(株)ATOUN 藤本先生から

奈良にユニークな企業があることを知っていただけたかと思いますので、好奇心が湧きましたら、気軽に会社見学にお越しください。多様性で社会にイノベーションを起こすきっかけづくりになればと思っております。一緒に、日本を、ついでに奈良も盛り上げて参りましょう。

DMG 森精機(株) 柏木先生から

奈良県企業の現代産業や魅力に関し、学生の皆様に紹介頂く機会を設けて頂き感謝しております。当社の技術力及び工作機械業界全体のこれからについて、皆さんに広く知っていただけるいい機会であったと考えます。社会に不可欠である工作機械は、我々の生活を豊かにしてくれます。奈良県にも様々なハイテク産業があり、企業の大小にかかわらずチャレンジし邁進しています。当社の経営理念に“よく遊び、よく学び、よく働き・・・”という文面があります。学生時代の知見は社会人になっても必ず役立ちます。コロナ禍の状況で行動範囲は狭まっていますが、止まない雨はありません。ぜひ広い視野で充実した学生生活をおくってください。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

奈良の製造業と言えば、墨や筆などの伝統産業的イメージが強い。またBtoB企業が多いためモノづくり製造業が奈良にたくさんあることを知らない学生も多くいた。後継者問題や労働力の確保といった課題については、AI や自動化などによる魅力的な労働環境の提供により奈良の製造業 (=日本の製造業) をますます発展させていくべきといった意見が多くあった。



第10回 「女性の多様な生き方・働き方を考える」 (令和2年12月15日)

奈良県子ども・女性局女性活躍推進課 係長 塚本 功 様
損害保険ジャパン(株)奈良支店 支店長席 東平 英里 様
法人支社 竹村 弥生 様

(1) 授業概要

ジェンダー(男女)平等の達成度合いを表す指数(GGI)を見ると、日本は世界で121位(153カ国中)で欧米諸国との比較だけでなく、アジア諸国の中でも低位です。さらに、奈良県は専業主婦の女性が全国で一番多い状況。そのような現状を踏まえ、女性はライフイベントにより人生が多様に分岐していくことが多い中、それぞれが希望する生き方・働き方を実現するために、個人ができること、社会全体がすべきことについて、奈良県女性活躍推進課ならびに損害保険ジャパン(株)奈良支店様から講義いただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想(抜粋)

課題①: 家庭の現状から何をすれば、家庭の役割分担は欧米のようなるだろう?

スライドにもあったように男性のほうが収入が多ければそのぶん女性は家事をして自然とバランスを取る傾向がありますが、収入よりも仕事の拘束時間でお互いの負担を理解しあい家庭の役割分業をすることが重要です。そのため、通勤時間をカットできるテレワークを増やしたり残業を減らしたりして在宅時間を増やすことが有効であると考えます。また家族の一員として家事をすることへの責任を自覚させるためにも、子供に積極的に家事に参加させることも効果的ではないでしょうか。

講義から、日本は他の国より妻が家事や育児をするべきであるという考え方が根強く残っていることがわかった。ここで欧米ではメイドやハウスヘルパーといった育児や家事を他人に委託するという文化がある。この文化が日本でも広がれば女性だけが家事、育児を全て抱え込む必要はなくなり、女性の負担を軽減でき、家庭の役割分業も変わるのではないかと考えた。

課題②: 職場の現状からどんな企業が増えれば、女性も男性も働き続けやすくなるだろう?

多くの企業で始業時間と定時が決まっており、その間は仕事場や訪問先に一定時間いなければならない。もしフレックス勤務できる企業が増えれば、朝早くに仕事に行き早めに帰り子どもの迎えや家事をする、一方で子どもを送り届け遅めに会社し少し遅くまで働くなど、自分たちの予定に合わせた時間に出社できる体系となり、より家事や育児に充てる時間を夫婦で交代しながら効率良く得ることができると考える。これまで会社という場に行ってこそ仕事だと考えてきたが、2020年を皮切りにテレワーク化が進んだ企業もあり会社に行かずとも自宅でできるという新たな仕事の形が見えてきた。この流れに乗って、プライベートな時間に行う家事や育児との両立を見据えた仕事のあり方を模索するため、自分の生活に合う労働時間の配置を少しずつでも行えるような企業が増えれば男女ともに働きやすい職場環境になるのではないかと考える。

男女で賃金格差がないこと、年功序列賃金が強すぎないことが必要だと考えます。子育て世代にもっと給料を出すことで、ベビーシッターを雇えるような社会になれば(ベビ

ーシッターの育成も必要ですが)、働きやすくなると思います。パートナーがいても、ひとり親であっても、周囲の環境が子育てを支援してくれることが重要だと考えます。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県女性活躍推進課 塚本先生から

「家庭での役割分担」・「男女とも働き続けやすい職場」について、たくさんのお考えをいただきました。ジェンダー平等において「これだけをすれば、全体がすごく良くなる」という取り組みはなく、みなさまの考えたひとつひとつのことを、みんなが積み上げていくことが大切だろうと思います。県の調査によると、「学校教育の場」では、男性が優遇されていると感じる人の割合は15.8%、男女平等と感じる人は66.5%です。しかし、「職場」においては、男性が優遇されていると感じる人の割合は57.8%で、男女平等と感じる人は27.8%と、割合が逆転します。学生時代と社会人では環境に大きな変化が起こります。そのため、将来についてジェンダー平等の視点を取り入れて考えることはとても重要です。今回考えた2つ視点について、ご自身の企業選びやパートナー選び等の際の参考にしていただければ幸いです。

損害保険ジャパン(株) 東平先生から

いずれむかえる就職活動そして生き方・働き方を考えるタイミングがきた時に、ひとつのご参考として思い出していただければ嬉しいなという想いでお話しさせていただきました。私達は、この世界には様々な意見・価値観があると知り、受け入れることからスタートしなければいけないと感じています。それぞれの価値観を共有し、違った価値観を持つ他者がいると知ること。自分にはない価値観に触れ受け入れることで、考え方は柔軟になり、人生は豊かになります。そして、柔軟になることで他者に寛容になり、誰もが自身の理想の暮らし方・働き方を選択できるような環境(ハード・ソフト含め)を社会全体で整えていこうという効果が生まれると思います。心豊かに、いきいきと余裕を持った働き方ができれば、それぞれの能力発揮にも効果的であり、まさにワークライフシナジーを高めることができます。選択はそれぞれ、考え方もそれぞれ。理想を実現するためにどの選択をするのか(住むところ、職場選び、業種、パートナーのこと)。社会環境の変化のスピードは驚くほど速く、それと同じように、皆さまの価値観も長い人生の中で何度も変化するはずで、皆さまが豊かに暮らすために、その時々で、自分が一番大切にしたいと思う軸と、柔軟性を持ってほしいなと思っています。

(4) 授業成果(担当教員 前川コメント)

奈良県の共稼ぎ世帯数の推移など奈良県の経済・家計の状況をもとに夫婦役割分業モデルや女性も男性も働き続けられる社会の実現を目指す奈良県の取組説明ならびに損害保険ジャパン(株)奈良支店からの多様な働き方の実現・長く働き続けるための取り組みはキャリアプランを考えるうえで多くの気づきを与えた。また、身近な先輩である本学OGで入社2年目の竹村さんから実際の仕事体験談を聞いたことは将来のライフプランを考えるうえでも大きなヒントを得られたように感じました。



第11回 「これからの地域社会と科学・技術を探る」(令和2年12月22日)

奈良工業高等専門学校 准教授 竹原 信也 様

(1) 授業概要

奈良工業高等専門学校竹原先生から「地域社会の重要性」という価値を共有し、「科学・技術の重要性」を学び、地域社会と科学・技術の関係を考える授業を実施いただいた。現在は科学と技術が混然一体となり、科学技術の発展により、様々な事柄が可能になり科学・技術を信頼しなければ我々の生活がなりたない一方で、科学技術に関わる事件・事故が衆目を集めている。それゆえ、社会が技術者や科学者に求める役割や倫理を考えていくことが大切になることを、地域社会やグローバリゼーションの視点から講義いただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想(抜粋)

課題①: 奈良の伝統産業が科学技術から学べること、その逆に科学技術が奈良の伝統産業から学べる可能性があるだろうか?

伝統産業は科学技術から手間を省く方法を学べる。科学技術は伝統産業からこだわりを学べる。

科学技術は我々の生活に大きく影響していると同時に、伝統文化や伝統工芸にも新しい可能性を与えている。伝統工芸の制作過程が精練されることによって業界に入る難易度が下がり、より多くの人々が後継者の道に歩むことができるようになった。一方、現代科学技術と古来の伝統製法の差異によって、伝統製法を使う業者が少なくなり、文化が消えてゆく可能性も高くなった。科学技術と伝統工芸のバランスをどう把握するかが問題点だと考えている。

奈良の伝統産業は今の上では衰退していくと思うので、伝統を残しつつも現代に適応させていくために、科学技術の最初で最高の技術を見習うべきだと思います。しかし一方で、効率や生産性だけを重視してできた今の科学技術には、ものづくりの上で一番大切な気持ちの部分の欠けていると思います。なので、その部分は奈良の伝統産業から学ぶところがあるなと思いました。

今現在私たちの身の回りは科学技術であふれており、家庭内や学校、医療現場など多くの場所で欠かせない存在となっています。つまり、科学技術なくして生活は成り立たないということを今回の授業で改めて気付くことができました。奈良県には世界遺産や国宝が多く、今でも十分に志賀直哉が言ったとおりの”美しい所”ですが、奈良の文化財などを科学技術と融合してさらに魅力ある街にできたら素敵だなと思いました。

課題②: 本日の講義を受けた感想

QRコードを使って意見を見て頂ける場面があり、遠隔授業でもやり取りができたのがとても楽しかったです。また奈良の伝統産業と技術の関わりについても大変興味深かったです。こちらに関して、鹿対策にどのようなものが考えられるか知りたいです。鹿の行動範囲が広く地元とのつながりが深いことは魅力でもありますが、時には入り込まれすぎて人の生活圏を荒らされてしまうこともあるかと思っています。伝統産業ではありませんが、奈良の鹿と人のすみわけで科学技術を生かせるところはあるのでしょうか。

QRコードを活用した授業は初めて受けました。オンライン授業でも、こうして授業参加が出来るのかと新鮮でした。特に印象に残ったのは、技術者と科学者の違いです。技術者というより、科学者こそ「考える人」という意見が多かったですが、元々、技術者の語源が「考案する人」だったとは意外でした。元々の単語の意味と現在使われているイメージとの変遷を感じて面白かったです。

地元を離れてみて改めて生まれ育った地域社会の特徴や課題、重要性を認識することができました。私は勝手に科学技術は伝統産業と相反するものだというイメージがあり、科学は私たちの日常とは離れたものと思っていましたが、昔から受け継がれてきた熟練の技術と最新のテクノロジーを融合することで社会が抱えている問題に新しいアプローチができるということに大きな期待感を持ちました。

QRコードや講義ノートを使用した講義だったので、自分が授業に参加しているという実感をより強く感じる事が出来ました。地域社会の重要性を学ぶ授業でグローバルゼーションという言葉をはりさげていくことに驚きました。グローバルゼーションは、地域社会性というのは徐々に失われていくのではないかと考えていたため、グローバルゼーションにより地域のローカルな文化的アイデンティティの復興を促すというのは全くの新しい考え方でした。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

この講義を通じて、“地域社会”や“科学”“技術”あるいは両者の関係性について考える機会にさせていただけたら、幸いです。また沢山のご意見・ご感想ありがとうございます。QRコードを読み取れず、質問の所でコメントしてくださった方。生産者の負担を軽くしていくことは非常に重要です。奈良女子大学と奈良高専の先生が山間部での農作業の負担を軽くする研究をした例もあります。交流させていただいている奈良女子大学の先生が以前、「奈良には本物が残っている」と仰っていました。「“奈良”だからこそ遺すことができる、発展させることができる技術・文化・産業があるのではないか。」そんな問いを立てながら、これからも勉強を続けていきたいと考えています。

さて今回、私は奈良女子大の授業において奈良高専の代表として授業をさせていただきました。実は奈良高専でも毎年、奈良女子大学の先生をお招きして「奈良」を紹介する授業をさせていただいております。高専生にとっては大学の先生の授業を聞く機会は滅多に無く、大変好評でございます。

これからも高専・大学の先生・学生の交流が深まることを祈念しております。ありがとうございました。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

技術者といえば理系のイメージが強いが、文系・理系に関係なく地域社会における技術者の役割・必要性を理解できたと考えます。奈良に残る伝統技術をさらに先の未来につなぐ科学技術が生まれれば良いという学生の気付きも多かった。Google フォーム、QRコードで先生からの質問結果をリアルタイムで反映させる授業スタイルも参加学生に非常に好評であった。



第12回 「これからの地域社会と生活福祉を考える」（令和3年1月5日）

奈良佐保短期大学 生活未来科 准教授 武田 千幸 様
奈良県社会福祉協議会 地域福祉課 主事 武智 奈津子 様

(1) 授業概要

生活福祉コースのある奈良佐保短期大学武田先生から「社会福祉」「生活福祉」「介護」について、高齢や障害などにより生活のしづらさを抱えている人々に対し日常生活面でサポートする福祉と介護は今後日本で生活するすべての人々の課題であることを講義いただいた。また、奈良県社会福祉協議会武智主事からは、地域福祉の事例を用いながら「福祉は身近なものである」という話ならびに一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる地域社会を目指す「福祉」について講義いただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想（抜粋）

課題①：今後の生活福祉について考えていきたいこと、取り組んでみたいことについて述べなさい。

ヘルパーさん同士またはヘルパーさんと家族同士の情報交換のつながりを強くしたいです。近年の医療の発達により、介護が必要な人の多様性が豊かになってきていると思います。すると、おむつを交換するという一つの作業でも介護を受ける人によって工夫すべきことやコツは変わります。そこで介護に携わる人が複数人になると、ヘルパーさん同士または在宅介護なら家族とデイのヘルパーさん同士でのそれらの情報の共有は不可欠です。しかしながら、私は在宅介護しかわかりませんが、普段から家族と介護スタッフ全体での情報の共有の難しさを痛感しています。とはいえ、プライバシーを守ることと気軽な介護スタッフ個人との交流は現時点のシステムでは両立はできないそうです。だから、家族でも施設の介護スタッフと気軽に情報共有できる業務用のアプリの開発について考えてみたいと思いました。

今後の生活福祉で重要な問題の一つである介護士の不足問題について考えていきたいと思います。お年寄りの数は年々増加するのにも関わらず介護士の仕事は3Kのイメージがあるためになかなか介護士になろうと考える人がいないと仰っていたので、高校などでもっと積極的に介護士の仕事を体験する機会などをつくることによって興味を持ってくれる若者を増やすことが出来るのではないかと思います。

課題②：コロナウイルスにより物理的に距離を取るなど対策が必要な中で、あなたならどうして繋がりますか？また新たな繋がりをつくりませんか？

コロナ禍でストレスがたまって誰かに相談することもできず、一人で抱え込む人が増えている。誰かと話すこと、繋がっていると感ずることで幸福度も上がり、地域福祉活動も活性化すると考えたため、私は密を避け少人数グループが何箇所かに集まりそれぞれの場所をリモートでつなぐといいのではないかと感じた。日常の会話をしている楽しそうな写真を SNS に挙げて興味を持ってくれた人と新たな繋がりもうむことができると考えた。

サロンを開くことが難しくなったため、屋外での交流を増やすべきだと考える。例えば、小学生の見守りパトロールに高齢者の積極的な参加を促すことや物理的距離を保て

るスポーツイベントの開催、移動販売車の運行によって高齢者の生活状況を確認することなどがあげられる。そして、新たなつながりをつくるために、このような場を活かすだけでなく、文通などインターネットを使わない方法で連絡を取り合うこともよいと私は考える。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良佐保短期大学 武田先生から

少しの時間から多くのことを感じ取り、考えてくださったことがよくわかりました。介護ロボットやIT、AIを活用していくこと、アプリを開発することを考えてくださった方もいました。人の手でなければできないことが福祉・介護にはたくさんあります。人の手のぬくもりが必要な場面が多いです。しかし、時代の流れに沿いながら介護ロボットや福祉機器、IT、AIをうまく活用していくことが、今後の福祉・介護を変えていくことになると思います。皆さんが直接福祉や介護のお仕事に就かれるかどうかわかりませんが、生きていく上で、お仕事をやる上で、今回お話した「生活福祉」の視点を活かしてくださいと思います。人は一人ひとり違います。考え方、価値観、表現の方法、得意なこと、苦手なことなど、数え切れないほどの違いがあつて当然です。それらを頭から否定するのではなく、そのような考え方や生き方もあるとまずは受容して、なぜその考えに至ったのかを考えながら、他者との関係性を築いていただければと思います。

奈良県社会福祉協議会 武智先生から

皆さんが例えば福祉職に就かれなかったとしても、「ふだんの暮らしをしあわせに」する機会はこれからたくさん巡ってきます。是非、今回お話した2つの福祉的な視点（「個人の困り事」を「地域の困り事」と考える視点、個人を変えるのではなく環境を変える視点）を念頭に置いていただき、気づきを活かして、自由に想像・創造しながら「こんなまちにしたい」を実現していただければと思います。

(4) 授業成果（担当教員 前川コメント）

日頃、福祉に関する授業を受ける機会の少ない受講生に向けて講義をいただいた。福祉の問題を福祉の分野だけでは解決するのが難しい時代がきているため、まずは「福祉」に関心を持ち、それぞれの人のちょっとした困りごとを聞いて、その解決策を横断的にいろいろな分野の中で考えていくことの重要性や、高齢者福祉や障害者福祉が、地域社会・地方創生の分野ともつながることが理解できた。



第13回 「これからの地域社会と自治体の役割を考える」(令和3年1月12日)

奈良県観光局 次長 谷垣 裕子 様
下市町 総務課 課長補佐 松原 正城 様
総務課 城之内 ふう花 様
財務監理課 田中 杏佳 様

(1) 授業概要

下市町松原補佐様から、下市町の概要説明の後、過疎化・高齢化が進行するなかで「元気」をキーワードとして、高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発、「元気印集落」事業を例にして地域力の向上ならびに地域の歴史・文化、コミュニティ事業を次の世代にバトンタッチさせる自治体の役割について講義をいただいた。同時に本学卒業生の城之内様と田中様から卒業後地方公務員として働いてみて感じたことなどの話を伺った。また奈良県観光局谷垣次長様からは、歴史を活用した観光行政を例に県の役割や組織と仕事、組織の中での役割分担、ライフステージと働き方の変化といった他、「地域経済発展を含め、県民の皆様の居住満足度、県民の幸せを増進させること」を常に意識しながら県の施策を実施することや地域の個性にこだわって取り組む仕事の楽しさを語っていただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想(抜粋)

課題①：県外の人に下市町を知っていただくためにどのように町の情報を発信していくべきだと考えますか？

下市町の公式 Instagram を拝見しましたが、フォトコンテストの写真を短期間に一気に公開しているのですね。せっかく町民の方々が撮った素敵なお写真ですので、「日常の一場面」として、毎日もしくは3日おきに公開するなどした方がいいと思いました。一気に公開されるより日常感が出ると思います。私は普段目にする SNS は Twitter なのですが、春日大社さんのように、日々写真や動画を公開しつつインフォメーションを怠らないといった SNS 運営が、いい印象がもてるなど感じます。

私も下市町の名前すら知らなかったという事から、まず名前を知ってもらうのではなく、下市町の特産物繋がりでの町について知ってもらう方が、一般的に知らない人も検索などはしやすいのではないかと思います。例えば柿が特産物なので、柿を使ったスイーツなどを作る地域交流の場を設け、完成品や交流風景などを SNS に載せて、「#柿」や「#奈良」などの一般的に知られているものから連想できるハッシュタグをつけると良いと思う。

課題②：あなたが、将来したいと考えている仕事は、誰のどのような幸せに貢献できるものでしょうか？あなたは、何によって人の幸せに貢献できるのでしょうか？

私は管理栄養士として、病院などで働きたいと考えている。老若男女全ての人に食べることは生きることであり、自分が好きな食でたくさんの人を元気付け、支えたいと思った。特に病院では自由に食べることが難しい人がいると思うため、もし将来病院で働くことができたなら、制限がある中でも食べることに楽しみを見出してもらえるような献立を考えていきたいと思う。

自分の話を相手にしてあげることによって人を幸せにできると思う。自分が、思い悩んだときや行き詰まったときに、誰かの元気で話を聞くと、前向きになることができ、自信がわいてくる。自分にもできるんじゃないかと夢を与えてくれるような話ができる人になりたい。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県観光局 谷垣先生から

私は奈良県庁一筋三十数年という働き方ですが、今後働き方はどんどん多様化していきます。ぜひこれまでの働き方の常識にとらわれることなく、この環境のよい奈良に住み奈良県内の働きやすい企業に勤める、また、奈良に住まいながら、ITを駆使して世界を相手に仕事をするベンチャー企業を立ち上げる、など、色々な可能性を探り、試し、調べ、考え、行動してほしいと思います。キーワードは「私自身の主体性。自分の頭で考える。私が仕事を選ぶ。私が人生を決める」です。人生の面白さも、仕事の面白さも、すべてあなた自身にかかっています。みなさん、がんばってください！

下市町 城之内先生・田中先生から

授業の課題においては、「インスタの#を工夫してみる」「Twitterを始めてみてはどうか」「有名人に依頼して町のPRをしてもらってはどうか」「YouTubeを活用しては」などなど、魅力的なアイデアをたくさん提案してもらうことができました。今回いただいたアイデアを活用し、より多くの方に下市町を知ってもらえるよう頑張ります。

私たちは、大学を卒業してからまだ間もないですが、「大学生の時にあれをしておけば良かった」と後悔することが多々あります。また反対に、経験しておいてよかったなと思うことも、大学時代は意味のあることだと思っていなくても、後々役に立ったこともあります。ですので、コロナ禍の中では難しいかもしれませんが、大学での授業・活動、アルバイト、遊びなどを通して、様々なことをやってみる学生生活にしてもらえたらと思います。そして、皆さんが大学生活を悔いのないように過ごすことが出来れば良いなと思っています。後、どれくらい学生の期間があるのかは学年によって異なるとは思いますが、1回生～4回生の方全員が、大学生としての素敵な時間を過ごせるように願っています。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

今回は、「地域社会と自治体の役割を考える」として奈良女子大学と連携協定を締結している下市町と奈良県側から本学OG3名をゲスト講師としてお招きした。地方公務員の役割、地域活性化への取組み支援、住民の立場での地域の維持・コミュニティの継承の重要性について講義いただいた。谷垣先生からの自治体の役割・課題といった他、本学OGの立場から、「地方公務員の仕事だけでなく、すべての仕事は誰かの幸せのためにある」「自分は何によって人の幸せに貢献できるのか」を問いかけながら、働きがいや自身のキャリア経験も披露いただいたことや城之内様、田中様からの実際の仕事紹介は受講生に対して、就職や自己の成長に対する心強い応援メッセージとなった。



第14回 「課題発見・問題解決・提案力を養う」(1) (令和3年1月26日)

講演 「なら学+(プラス)からの学びを今後効果的に社会で活かしていくには」

(一財)南都経済研究所 上席研究員 吉村 謙一 様

(1) 授業概要

(一財)南都経済研究所吉村様から、『なら学+(プラス)からの学びを今後効果的に社会で活かしていくには』と題して、前に踏み出す力、考え抜く力、多様な人々と共に目標に向けて協力する力などの「人生100年時代の社会人基礎力」について、並びにキャリアをすべて計画的に形成するのは現実的ではなく、キャリアの8割は予想しない偶発的な出来事によって決定されるという「計画的偶発性理論」について講義をいただいた。

(2) 学生へのレポート課題と感想 (抜粋)

課題：本日の講義を受けた感想

計画的偶発性理論についてお話を聞き、私の就職活動での経験とも重なりとても納得できた。就活をするなかで偶然注目した業界で働くことになったが、1年前までは自分がその業界で働くことは予想もしていなかった。しかし、今振り返れば、当初の計画と異なる業界に飛び込むことを恐れずこの選択をしたことにととても満足している。まだ5つのスキルを身につけられているわけではないが、今後働くにあたり、チャンスを活用できる人になりたいと感じた。

計画的偶発性理論について初めて知って、今後働いていくうえでとても勉強になるお話だと思いました。卒業後の進路について不安が多いですが、好奇心・持続性・柔軟性・楽観性・冒険心といった心構えを持ったうえであれば、あまり自分のキャリアを決めつける必要も無いのだと分かりました。18歳のときに想定していた仕事をしている人がたったの2%だという事実にも心が軽くなりました。ただ、今までの大学生活を顧みると、いつも消極的で偶然のチャンスにも全く目を向けられてこなかったなという後悔が大きいです。今後はそういった心構えを常に意識し、偶然のチャンスを無駄にしないようにしたいです。

人生100年時代において、学生時代はとても短く貴重な時間であることに気づき、少しも無駄にできないなと思った。日々の学びやボランティア活動への参加を通して、社会人基礎力を伸ばしていきたい。計画的偶発性理論を初めて知ったが、私自身、奈良女にきたことは予想しない偶発的な出来事だったので、とても納得した。予期しないことが起きても、前向きにとらえて新しい可能性を切り開いていきたいと思う。

「他人事」ではなく「自分事」という言葉が印象に残りました。物事に能動的に取り組むことの大切さを実感しました。質問にもあったように、私も働くことへの不安が大きかったのですが、完璧にできる人はいないのだからできない部分は他の分野でカバーすればいいという言葉に少し安心しました。

ちょうど大学卒業後のキャリアについて考えてはみるものの、これだと思う仕事等が見えてこず、悩んでいたタイミングだったこともあり、キャリア形成ではあらかじめ計画していたことよりも偶発的に起こることが影響する場合が多いというお話が特に心に残った。今後は1つの決まった計画を作るというのにあまり拘りすぎず、また頭で考えるだけに留まらず、そういった偶発性というものもあるということを念頭に、色々なことに

挑戦していきたいと思った。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

「人生100年時代の社会人基礎力」は、何も全ての項目をもれなく完全に満たさねばならないということではありません。全てを完璧に満たすという超人のような人はいないでしょう。社会人基礎力の項目をレベルアップするの如果能够できれば望ましいということのを頭の片隅に置いて、できるだけそれを満たすようにしようという姿勢を持って頂くだけでも十分です。質疑応答の際にも少し申し上げましたが、人間には得手不得手があるのが当たり前なので、どうしても自分が足りない項目は得意な人にカバーしてもらえばいい、チーム全体で補い合ってこなせばいいくらいの軽い気持ちでいて頂ければと思います。私の授業だけに限らず、「なら学+ (プラス)」全体で得た様々な分野の知見を活かして、今後皆様のご活躍されることを祈念しております。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

南都経済研究所吉村様からは「なら学+ (プラス)」授業の総括ならびに、将来に向けての「人生100年時代の社会人基礎力」、「計画的偶発性理論」について紹介いただいた。特に、社会人基礎力については「何を学ぶか? どのように学ぶか? どう活躍するか?」の視点をもつこと、また、今後のキャリア形成において重要な姿勢は、①目の前のことに集中しベストを尽くすこと、②視野を広く持ちオープンマインドでいること、③そして行動することであるとメッセージは受講生に向け大変有益であった。



第15回 「課題発見・問題解決・提案力を養う」(2) (令和3年2月2日)

授業の振り返りと課題レポート「奈良への提案」の紹介

やまと共創郷育センター 特任教授 前川 光正

(1) 授業概要

なら学+ (プラス) の最終授業として、受講動機、受講アンケートの紹介、これまで実施した授業の振り返りならびに課題レポート「奈良への提案」の紹介、講評および応用についての講義を実施、同時に、Google フォームを利用し、社会人基礎力となら学+ (プラス) の授業要素に関するアンケートと授業感想を実施した。

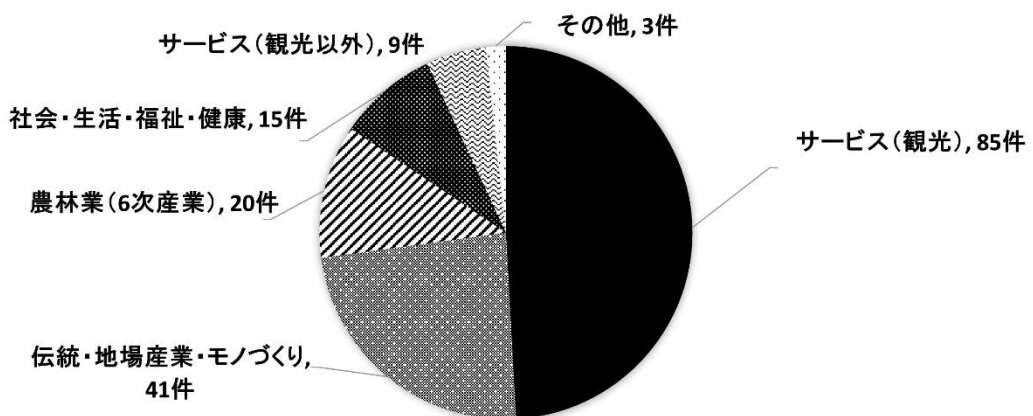
(2) 課題レポート「奈良への提案」(提出者 173人)

なら学+ (プラス) 受講者に対して、授業を通じて得た知識や自分で調べたデータをもとに、提案に至った背景や目的、具体的な内容や特色を以下の書式にまとめる課題である。

■ 提案ジャンル

<input type="checkbox"/>	農林業 (6次産業)	<input type="checkbox"/>	伝統・地場産業・モノづくり	<input type="checkbox"/>	サービス (観光)
<input type="checkbox"/>	サービス (観光以外)	<input type="checkbox"/>	社会・生活・福祉・健康	<input type="checkbox"/>	その他

1. プラン名 (30字程度)
2. プラン着想の経緯と理由 (150字程度)
3. プランの具体的な内容 (500字程度)
4. プランの特色 (100字程度)



【講師コメント】

奈良と言えば、「シカと大仏」とのイメージは強く、観光に関する提案が85件と半数を占めた。特に、宿泊者数を増やすために夜の観光の活性化を促す提案やSNS、Instagramの活用といった現代的なツールを使用した奈良の観光活性化提案も多くあった。プラン名については、端的で非常にわかりやすく、「面白そうだな!」「詳しく知りたいな!」と思わせるものも数多くあった。また、提案経緯やその理由については、課題分析がしっかりと記載されているものが多くある一方、その具体的内容については、

実現可能性や経済的合理性に欠く提案も散見された。学生には、自らがプランを実行する立場で考えて提案することが大切であると指導すると共に、特に、プランの実現可能性や地域への貢献をより明確にすること、年度ごとの事業計画書を付けること等によりビジネスプランコンテストへのチャレンジを促した。

なお、提出レポートのうち、公開に同意したレポート 150 件については本編第 2 部に掲載した。

(3) 社会人基礎力に係るアンケート結果 (有効回答数 131 人)

なら学+ (プラス) 授業では、社会人基礎力を身に付けることも授業の狙いであることから、「12 の社会人基礎力の要素のうち最も身に付いたと感じている要素と、その能力の向上にこの授業の構成要素のどれが影響したと思いますか」を Google フォームを使用して尋ね、その結果を学生と共有した。

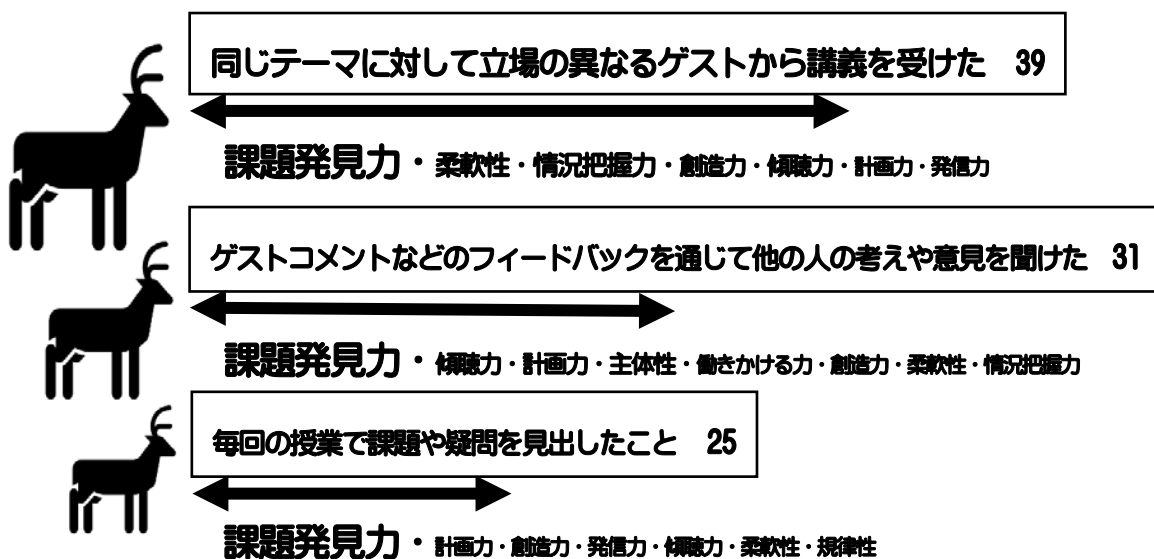
授業要素	前に踏み出す力			考え抜く力			チームで働く力					ストロリスルコン	合計
	主体性	働きかける力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性		
毎回の授業に出席したこと				3					4		1		8
ゲストの業種の業務内容を知ったこと			1	6	1			1	2	2			13
ゲストのキャリアコースを知ったこと				2	1			1		2			6
毎回の授業で課題や疑問を見出したこと				17	2	2	1	1	1		1		25
同じテーマに対して立場の異なるゲストから講義を受けたこと				19	1	3	1	3	7	5			39
ゲストコメントなどのフィードバックを通じて他の人の考えや意見を聞いたこと	2	1		18	3	1		4	1	1			31
自分で課題を設定してその解決策を考えたこと				8									8
提案書や企画書の構成を理解したこと				1									1
次回テーマに関して事前質問を行ったこと													0
その他(上記項目にない場合は自分で書き入れてください)													0
合計	2	1	1	74	8	6	2	14	11	11	1	0	131

【講師コメント】

社会人基礎力の 12 の能力要素のうち、考え抜く力の構成要素である「課題発見力」が身に付いたと回答したのが 74 人 (56%) を占め、続いて、「傾聴力」14 人 (11%)、「柔軟性」11 人 (8%)、「状況把握力」11 人 (8%) と自己評価している。また、「課題発見力」の能力向上に寄与したとする授業の構成要素については、「同じテーマに対して立場の異なるゲストから講義を受けた」、「ゲストコメントなどのフィードバックを通じて他の人の考えや意見を聞いた」、「毎回の授業で課題や疑問を見出した」であった。同時に、授業の構成要素である「ゲストコメントなどのフィードバックを通じて他の人の考えや意見を聞いた」については「傾聴力」、「計画力」に、「同じテーマに対して立場の異なるゲストから講義を受けた」については、「柔軟性」や「状況把握力」を身に付ける要素となっている。

また、最終レポート「奈良への提案」の要素「自分で課題を設定してその解決策を考えたこと」は、全員が「課題発見力」に直結しているが特筆される。なお、この授業科目

は、主に低年次学生が受講していることから、今後 PBL 型要素の強い専門教育科目につなげることにより、「前に踏み出す力（アクション）」や「チームで働く力（チームワーク）」といった社会人基礎力の他の要素を身に付けていくことも十分に期待できる。



(4) 授業アンケート結果(実施日 令和2年12月1日～12月31日)(有効回答数 112人)
 「なら学+ (プラス) では奈良県をはじめとする自治体や県内企業関係者を実務家教員としてお迎えし、様々な視点で奈良の課題や取り組みについて講義を展開しています。この授業は、あなたのキャリア形成等にどのような効果や変化をもたらすと考えますか?自由に記載してください。」

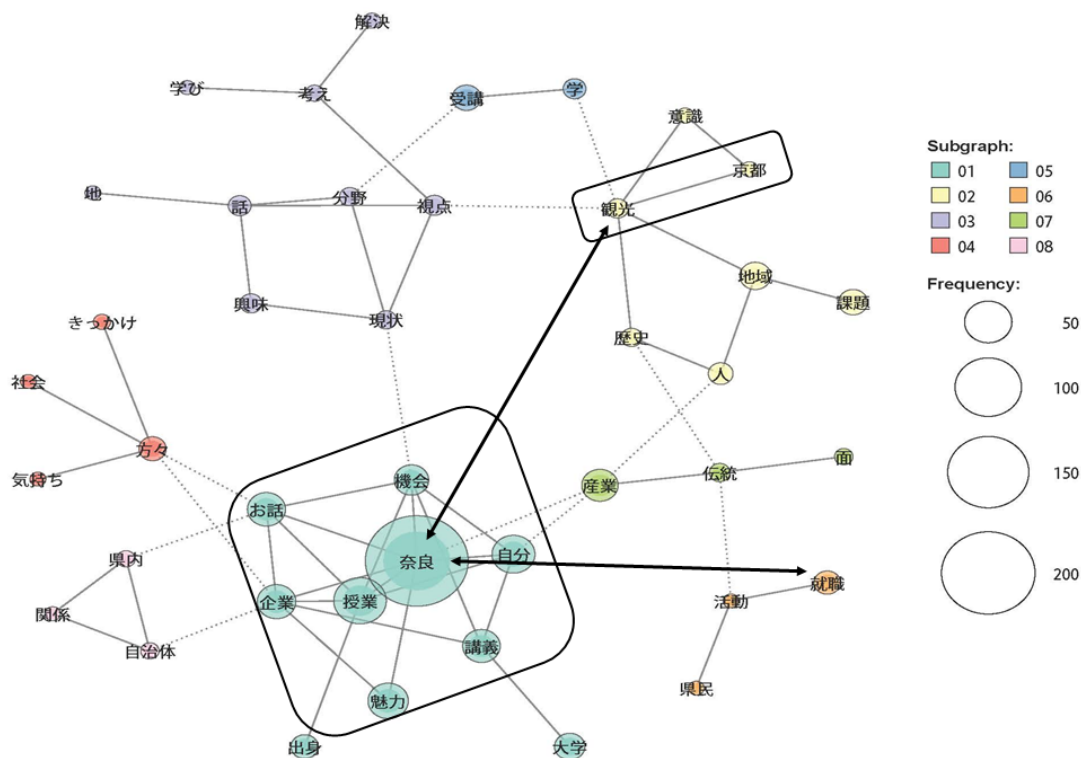
(抜粋)

自分の10年、20年、30年先の状態を想像するにあたり、様々な職種に就いておられる方々のお話を聞くことで、一口に“社会人”と言っても、働き方やものの見方は十人十色であるということを実感できるようになりました。奈良に対する理解ももちろん深まりましたが、そのように色んな“大人”の在り方のサンプルを得られたことがこの授業の最大の価値だと感じています。

奈良の大学に通っていてもまだまだ奈良の歴史や文化について知らないことがたくさんあるなど感じる日々です。奈良には素敵な場所や食べ物がたくさんあるのに、それを知らずに大学に通うというのはもったいないなと思いました。将来は、大阪や京都で働きたいと思っていましたが、大学4年間通った奈良に何か還元できる事業ができたらいいなと思うようになりました。

今まで知らなかったことを様々な観点から学べてとても充実しています。また、課題でどのように改善してゆくべきかなどの質問が出されるので、そこで授業の振り返りを含め、自分の考えをまとめることができ、大学生らしい学びができています。

私は奈良県の出身ではないので、奈良がどのような県なのか全く知りませんでした。この授業を通して、様々な面から奈良について知れることはとても楽しいです。また、同じテーマでも自治体と企業の両方の視点から現状を学ぶことができるため、視野が広がっているように感じます。



計量テキスト分析による共起ネットワーク図

受講生への授業アンケート回答結果を計量テキスト分析し、共起ネットワーク図を上記の通り作成した。「奈良」と「授業」「機会」「自分」「講義」「魅力」「企業」といった言葉と結びつきが強いことから、この授業が「自分の将来を広げる」きっかけや、「考える・聞く機会」を与えていることがわかる。「奈良と就職」の結びつきは一見弱くみえるが、「就職」という言葉の前に「奈良」の言葉との結びつきがみられ「奈良での就職を意識」するきっかけを与えていると思われる。なお、「観光と京都」との結びつきが強い結果が見られるが、これは学生が奈良の観光を京都の観光と比較し、意識する傾向が強いことを示していると考えられる。

(5) 学生からの授業感想ならびに授業の改善等について (令和3年2月2日実施)
(抜粋)

実際に課題に直面している方からお話を聞くことにより、現在の奈良の状況を身近に感じることができました。講義の中で印象に残ったのが、三輪素麺のお話で広報の失敗例を具体的にお話くださったことです。私が良い方法として安易に考えた案と似ていたのに、それが失敗したことが意外でとても勉強になりました。企業様が差し支えない場合は失敗談をたくさん聞けると良いなと思いました。

おひとりおひとりのお話の時間が少し短かったのではないかと思います。一方で、授業時間内に2つの業種の方からお話を伺うことが出来、パネルディスカッションを聞くことが出来たので、とても充実していた点では良かったと思います。そのほかは、本当に様々な分野の方のお話、そして奈良に対する想い、キャリアの考え方について聞いて、私の将来のキャリア観を充実させられるきっかけとなり、大変良かったと思います。今まで考えていた業界や、やりたいこと以外にも、もっと奈良のためにできることがあるのではないかと考えるようになりました。

もう少しお金の事情についてお話してほしかったなと思います。例えばこの計画を実施するのに〇百万円かかったなど。そうすれば、みんなもより具体的で現実に沿ったアイデアを提案できるのかなと思いました。

自治体や企業の方のお話を実際に聞くことができる講義はあまりないと思うので、良い経験ができた講義だったなと思いました。私は、奈良県出身ではないので、奈良について知らないことが多かったのですが、講義を受けて様々な魅力を知ることができました。また、レポート課題作成にあたって、奈良の良さをもっと広めるためにはどうしたら良いかを考えることは楽しかったです。次年度以降の授業への要望としては、各自が考えた「奈良への提案」を受講生同士で意見交換などが出来たら、面白いのではないかと思います。

この一年間、満足に大学に通うことが出来ない状況でしたが、この講義のおかげで、奈良県について詳しく知ることが出来たのではないかと思います。私は、第13回授業の下市町の講義が、自治体の抱える問題やそれに対する対処法について学ぶことが出来たので、一番面白かったです。次年度は、下市町に限らず、奈良県の他の自治体の取り組みも、講義で取り上げてくださると嬉しいです。半年間、ありがとうございました。

ガイダンスでは、受講動機アンケートを行ったが、「奈良の企業との連携を意識した学習・研究を行いたい」、「奈良の将来はどうあるべきかを考えたい」といった項目において関心が低かったが、これらの感想から、学生の意識が徐々に高まったことが分かります。

改善点について、ひとつのテーマに対してダブルゲストをお呼びしたことから、「一人分の話が短い」といった指摘がありました。官民双方のゲストから同じ課題を異なる視点で話していただくことのメリット等を勘案すれば悩ましい問題でもあります。また、この授業では、「観光、農林業、モノづくり、サービス、社会福祉、生活・健康」等多岐に渡る分野から奈良県の抱える様々な課題を共に考え、奈良に関する基礎知識の獲得、課題発見、問題解決、提案力を養い、地方創生に資する人材の育成を目的としていることから個々の課題に対する深掘りも不足しております。

学生からの意見を参考にして、次年度の授業内容について改善を進めてまいります。

[問い合わせ先]

奈良女子大学 やまと共創郷育センター

〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋東町

TEL 0742-20-3989 FAX 0742-20-3993

